



何度も陶芸体験をしてきた子どもたちは、筒状に成型された粘土を見て知っています。なめらかで、ひんやりとした感触も、手が覚えています。では、その粘土はどこから来たのか？

丹生郡の「丹」の文字は赤土という意味で、織田や宮崎でとれた土だろう、ということは想像がつきます。ただ、身近な場所で見ると、焼き物の材料として知っているあの粘土が、なかなか結びつきません。

この日は、越前焼工業協同組合の橋本さんに、粘土の採取場所や坏土工場を案内していただきました。良い土を求め、採取した後、多くの手間と時間をかけてあの見慣れた粘土に仕上げていることを、実際に見て聞いて、確かめることができました。

今や、情報はさまざまな方法で容易に手にすることができます。けれども、地域の人が地域の自然や伝統を守ろうと尽力する姿に直接ふれ、思いのこもった言葉に心を動かされ、喜びだけでなく、苦労や未来への願いを感じ取ることは、何にも代えがたい学びを子どもたちにもたらし続けています。

1 主体的な学びづくり 2 創造的な学びづくり 3 成長を支える環境づくり

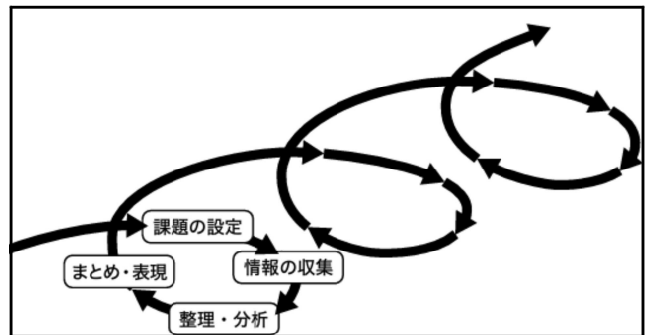
の三つを重点目標に、教育活動に取り組んでいます。今回は「1 主体的な学びづくり」より、「探究的に学ぶふるさと学習のカリキュラム開発」の実践をお知らせします。

ふるさとを 探究的に学ぶ

私たちは、生活科や総合的な学習の時間で行っているふるさと学習を、体験で終わらないようにすること、探究的な学びにすることをめざしています。具体的には、ふるさと宮崎や自分たちの生活に目を向けて学ぶ中で、

- ①課題の設定
- ②情報の収集
- ③整理・分析
- ④まとめ・表現

といった過程が連続し、自分の考えや課題が更新されていく、右の図のようなイメージです。



総合的な学習を始めたばかりの3年生は、たけのこ掘り体験や加工場見学を出発点に、「たけのこプロジェクト」をスタートしました。最初に

設定した課題(①)は、「おすすめのたけのこ料理を調べよう」でした。

全校児童にアンケート調査したり、生産農家の方や栄養教諭にインタビューしたりして情報を収集(②)し、算数で学習したグラフを用いて結果を整理(③)しました。わかったことは、お世話になった生産農家の方や、家族を招いて発表(④)しました。

学習を進めていく中で、子どもたちの中から「自分たちで、たけのこ料理を作りたい」と、次の課題(①)が生まれました。おもいでなの「花みずき味人」のみなさんと連携し、たけのこご飯や肉まんを作りたいと計画していて、まずは見学に出かけたところです。

このように、主体的に学ぶ過程を大切にしながら、課題解決に必要な力をつけたり、すすんでふるさとかかわろうとする態度を養ったりしていきたいと考えています。



教科で学んだことを使って



発表を熱心に聞いてもらって 意欲アップ